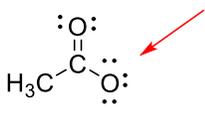
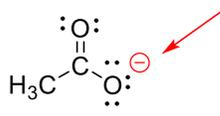
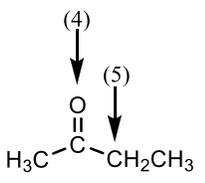
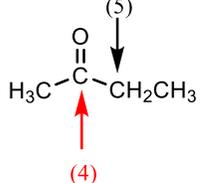
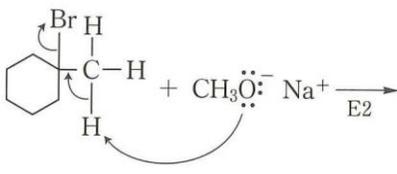
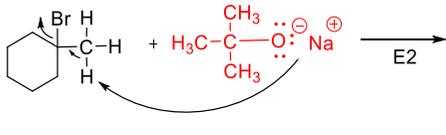


実教出版「Professional Engineer library 有機化学」正誤表（第2刷用）2020年6月時点
 本書には下記のような誤りがありました。おわびして訂正いたします。

箇所	誤	正
p.15 問3(1)		
p.23 問3(4)		
p.29 (2-6)式の 説明文2行目	HCl	H ₂ O
p.47 演習問題 B 3-B2	通常エーテル類は反応が低い化合物であるが,	通常エーテル類は反応性が低い化合物であるが,
p.68 問1(4)	$\text{HC}\equiv\text{CCH}_2\underset{\text{CH}_3}{\text{CH}}\text{CH}_2\text{CH}_3$	$\text{HC}\equiv\text{CCH}_2\overset{\text{CH}_3}{\underset{ }{\text{CH}}}\text{CH}=\text{CH}-\text{CH}_3$
p.86 上から5行 目	-CH ₃	-OH
p.87 比旋光度 の式	$[\alpha]_D = \frac{\text{観測した回転角(度)}}{\text{試料管の長さ}l(\text{dm})} \times \text{試料濃度}c(\text{g/mL})$ $= \frac{\alpha}{l} \times c$	$[\alpha]_D = \frac{\text{観測した回転角(度)}}{\text{試料管の長さ}l(\text{dm}) \times \text{試料濃度}c(\text{g/mL})}$ $= \frac{\alpha}{l \times c}$
p.91 1行目	C ₅ H ₁₀ O	C ₅ H ₁₂ O
p.101 溶媒和の 図中	+K	K ⁺
p.107 3行目 以降	しかし、ここではかさ高い塩基ではなく、小さな強塩基なので、生成物はザイツェフ則に従う。 	しかし、ここでかさ高い塩基では、生成物はホフマン(Hofmann)則に従う。 

p.152 例題 11-3 (1)の問題・解答 生成物の名称	2-ペンタナール	2-ペンテナール
p.158 11-4-7 リンイリドの付 加 ホスホニウ ム塩の構造式	$(\text{C}_6\text{H}_5)_3\text{P}^+\text{-}\overset{\text{H}}{\text{C}}\text{HR}$	$(\text{C}_6\text{H}_5)_3\text{P}^+\text{-}\overset{\text{H}}{\text{C}}\text{HR}^1$
p.158 最下段 (反応例)の反応式		
p.159 1行目 構造式		
p.163 11-B4 (3) 原料構造式		
p.202 下から 2段目の反応式 中の名称	アシルアシド	アシルアジド
p.205 問 7 (4) 構造式		